



Title	二字漢語動詞における日韓対照研究
Author(s)	崔, 海倫
Citation	研究論集, 13, 321(左)-337(左)
Issue Date	2013-12-20
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/54077
Type	departmental bulletin paper
File Information	018_CUI.pdf



二字漢語動詞における日韓対照研究

崔 海 倫

要 旨

本稿は日本語と韓国語において重要な役割を果たす、いわゆる漢語の中でも、特に二字動詞に焦点を当てて対照して考察したものである。従来よく議論されてきたように、韓国語の「하다 (hada) 形」・「되다 (doeda) 形」と日本語の「スル形」・「サレル形」の使い分けは、韓国語の学習或いは日本語の学習における難点の一つである。

本稿では、先行研究を踏まえて、形式上から現象を整理して、日韓二字漢語動詞の対応関係を再分類した。その際漢語動詞は、自動、他動の違いにより、用法が異なってくるので、自動詞と他動詞との場合に分けて検討した。

他動詞の場合、日韓対応では、形態の面で規則的に対応しており、その意味の面でも主体が有情物あるいは、それ自体が大きな力を持つものであり、その対象に対し積極的な働きかけを行うという共通点を持っていることが分かった。

自動詞の場合は、それをさらに分類して、非能格自動詞と非対格自動詞の2種類に分類した。日本語が自動詞の場合では、全て同じ形態を取っているのに対し、韓国語では、非能格自動詞と非対格自動詞は違う形態を取っている。そして、韓国語の他動詞としての「되다 (doeda)」が受動の意味で、つまり、日本語の「サレル」に対応するが、自動詞としての「되다 (doeda)」は韓国語の「되다 (doeda)」の本動詞「ニナル」の意味として使われ、受動とは無関係と分析した。

1. はじめに

日韓の漢語は共通する部分もあるが、互いに共有していない語や、同じ漢字で表記可能でありながら日韓で意味の異なるものもある。例えば、「工夫」という漢語は日本語では「いろいろ考えてよい方法を得ようとする」という意味であるが、韓国語では「공부 (gongbu)」と表記され、意味は日本語の「勉強」と同のような意味になる。

また、韓国語には日本語の「スル動詞」に対応する「하다 (hada) 動詞」が存在する。さらに、その「하다 (hada)」が「되다 (doeda)」に交替すると、受動¹を表す場合がある。日本語における「スル動詞」には、能動形と受動形で「スル形」と「サレル形」の対立があるが、それがそのまま韓国語の「하다 (hada)」と「되다 (doeda)」に対応するわけではない。次の場合を見てみよう。

(1) a. 彼が欠席した。

b. 그가 결석하였다.

geu-ga gyeolseok-ha-yeoss-da

(彼が 欠席 する-過去-終結 E)

(2) a. 体育大会が9月3日開催される。

b. 체육대회가 9월 3일 개최된다.

che-yukdaehoega 9wol 3il gaechoe-doe-n-da

(体育大会が 9月 3日 開催 される-現在-終結 E)

(3) a. 彼がインフルエンザに感染した。

¹ 韓国語の受身は多種多様で一般的に動詞の語幹に「이 (i)」、「히 (hi)」、「리 (li)」、「기 (gi)」などの接尾辞をつけて作る。

例① 보다 (boda) (見る) — 보이다 (bo-i-da) (見られる)

먹다 (meok-da) (食べる) — 먹히다 (meok-hi-da) (食べられる)

それ以外にも、固有語動詞に受身の補助動詞「-지다 (jida)」を用いる方法がある。

例② 만들어지다 (만들다+지다) (作られる)

알려지다 (알리다+지다) (知られる)

しかし、漢語動詞の受動の場合は、漢語名詞いわゆる「하다 (hada) 動詞」に元来は「なる」を表す「되다 (doeda)」をつける。

例③ 결정하다 (決定する) — 결정되다 (決定される)

요구하다 (要求する) — 요구되다 (要求される)

それ以外も받다 (受ける), 당하다 (～される) という意味の動詞がついて、受身を表す場合がある。

例④ 사랑 받다 (愛される)

소개 받다 (紹介される)

암살 당하다 (暗殺される)

b. 그가 인플루엔자에 감염되었다.

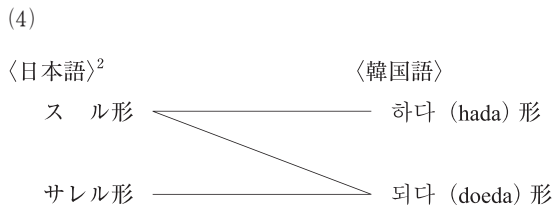
geu-ga inpeulluenja-e gamyeom-doe-eoss-da

(* 彼が インフルエンザ に 感染 なる-過去-終結 E)

(1)では、日本語の「スル形」が韓国語の能動形「하다 (hada)」(以下「하다 (hada) 形」と称する)に対応しており、(2)では、日本語受動形「サレル形」に対して韓国語受動形「되다 (doeda)」(以下「되다 (doeda) 形」と称する)に対応している。(3)では、日本語の「スル形」が、韓国語受動形の「되다 (doeda)」に対応している。

以上の内容から、日本語の「スル形」に対して、韓国語では「하다 (hada) 形」と「되다 (doeda) 形」の二つの形に対応する可能性があることがわかる。

この日本語の「スル形」・「サレル形」と韓国語の「하다 (hada)」形・「되다 (doeda)」形の対応関係を図式で示すと、以下ようになる。



この図式は、日本語の「スル形」の動詞の中に受動と近い関係を持つものが含まれていることを暗示している。しかし、日本語の態に関する研究は数多くあるものの、漢語動詞の態に関する研究については多く論じられていないようである。

また、日本語の「漢語+スル」の形は非常に生産的な形である。そして、この漢語動詞の能動形に対する受動の形は「～される」であり、その形態の取り方は一般の動詞に比べて規則的なものである。一方、韓国語の「漢語+하다 (hada)」の形も、生産的でかつ一般の動詞より規則的な受動と能動の形態の対立を成す点においては、日本語の漢語動詞と類似的な性格を持つ。

そこで、本稿では、漢語動詞における日本語と韓国語の能動形と受動形の関係について考察することにした。つまり、日本語の漢語動詞と韓国語の「하다 (hada) 動詞」との対照を通して、日韓漢語動詞における能動形と受動形の形式及び意味の関連性とその相違を明らかにしたい。

² 図式は、生越 (1982) によるものである。

2. 先行研究

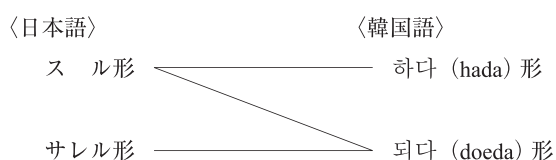
韓国語の「하다 (hada) 形」・「되다 (doeda) 形」に関する研究は、これまで主として日本の韓国語研究者や韓国人日本語研究者によって行われてきた。「하다 (hada) 形」(スル形)と「되다 (doeda) 形」(サレル形)の使い分けは、韓国語の学習或いは日本語の学習における難点の一つであるためである。

この「スル形」と「하다 (hada) 形」の対応関係に最初に注目して論じている先行研究として、生越(1982)があげられる。

生越(1982)では、日本語の漢語動詞の能動と受動の関係を韓国語の「하다 (hada) 動詞」との対照を通して明らかにすることを目的とし、つまり日本語の態の取り扱いについて分析した。

そして、日本語「スル形」・「サレル形」と韓国語の「하다 (hada) 形」・「되다 (doeda) 形」の対応関係を以下の図式で示し、その対応関係を単なる形態から見て、三つの型にまとめている。

(4)



(5)

- I. 日本語「スル形」——韓国語「하다 (hada) 形」

欠席する	결석하다 gyeolseok-hada
開催する	개최하다 gaechoe-hada
- II. 日本語「スル形」——韓国語「되다 (doeda) 形」

感染する	감염되다 gam-yeom-doeda
判明する	판명되다 panmyeong-doeda
- III. 日本語「サレル形」——韓国語「되다 (doeda) 形」

開催される	개최되다 gaechoe-doeda
発行される	발행되다 balhaeng-doeda

生越(1982)によると、日本語「スル形」と「サレル形」の区別は、主語に対する積極的な働きかけの有無による。主語に対する働きかけがあり、主語と対象の関係が成立する時は、

「サレル形」が用いられる。一方、主語に対する働きかけがなく、主語と対象の関係が成立しない時「スル形」が用いられる。一方、韓国語「하다 (hada) 形」と「되다 (doeda) 形」の区別は、基本的には主語が動作の主体の時「하다 (hada) 形」、主体でない時「되다 (doeda) 形」が用いられる。ただし、自動詞では、動作・状態変化の実現において最も強く働いた力が、主語の持つ力とみなされる時は「하다 (hada) 形」、主語以外の力とみなされる時は「되다 (doeda) 形」が用いられるようである。

また、韓国語の自動詞としての「하다 (hada)」形・「되다 (doeda)」形の使われ方についても論じている。その使い分けの条件を次のように説明している。

(6) 動作・状態が主語の持つ力によるのか主語以外の力によるのか 生越 (1982)

柴 (1986) でも、「하다 (hada) 形」と「되다 (doeda) 形」について、「主語の動作や状態の変化が主体的に行われたか否か」に注目して使い分けの条件を説明しており、生越 (1982) と類似した立場で論じている。

以上の研究が主として作例を中心とした分析であったのに対し、韓 (1990) は実際の用例を基に分析を行い、「하다 (hada) 形」と「되다 (doeda) 形」の使われ方、及び日本語の「スル形」・「サレル形」との対応関係を整理した。韓 (1990) で注目されるのは、漢語動詞の語彙的な意味によって「하다 (hada) 形」と「되다 (doeda) 形」の使われ方や意味が異なることを指摘した点である。しかし、用例を中心に分析しながら、最も微妙な部分である「하다 (hada) 形」と「되다 (doeda) 形」が同じ自動詞構文で使われる場合については、その違いを簡単な作例で説明しようとしており、論証としては不十分なものになっている。

以上の先行研究を見ると、表に現れている形態のみ部分を持って対応関係を示している研究が多いことが分かる。しかし、漢語動詞を形態的な面からの分類のみでは、その意味上における解釈と繋がりにくいという問題点が残る。そこで、筆者は動詞の自他を区別して、両言語の対応分類を行う必要があると考えられる。

特に自動詞において「하다 (hada) 形」・「되다 (doeda) 形」と「スル形」・「サレル形」がお互いに能動・受動の関係にあるとは言い難い。そのため、発表者は自動詞の「되다 (doeda) 形」を細分化し、考察すべきだと考えている。

3. 非対格性と動詞分類

本稿では、二字漢語動詞に焦点を当てて検討することになるが、この議論にとって重要な基盤となるのは動詞分類とそれを反映する項構造・語彙概念構造である。従来、動詞は単純に他動詞と自動詞に二分されているが、本稿ではさらに影山 (1993) で提示している自動詞に2種

類あるという仮説、つまり自動詞は、非対格自動詞と非能格自動詞の2種類に区分されるという考えを採用したい。

簡単に言うと、自動詞はさらに、主語になるものが「外項」、言い換えると、意味上の主語であるか、または「内項」、つまり意味上の目的語であるかによって前者を非能格動詞、後者を非対格動詞と2種類に下位分類する。

この区分には統語的な側面と意味的な側面がある。項構造から見ると、項構造に現れる動作主 (Agent) や対象 (Theme) と言った項は対等な資格で並列されるのではなく、ある種の階層関係で示される。本稿では、影山 (1990) の表示型項構造の内部を () と < > を用いて区別し、< > の中に表示された項を内項、その外側に表示された項を外項とする。その内項・外項の項構造を示すと次のようになる。

(7)

他動詞 : (Agent<Theme>)

非能格自動詞 : (Agent < >)

非対格自動詞 : (<Theme>)

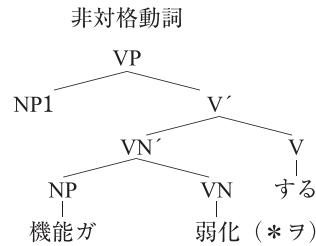
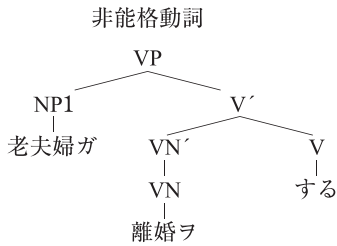
意味的には、ごく大雑把に言うと、意図的に動作を行う動作主 (Agent) を主語にとる自動詞が非能格、意図を持たず受動的に事象に関わる対象 (Theme) を主語にとる自動詞が非対格である。このような構造分析を漢語動詞に導入し、「散歩ヲする」のように漢語動詞に「ヲ」を接続してみると、(8)に示されるように、「ヲ」は他動詞と非能格自動詞にはつくが、非対格自動詞にはつかないようである。

(8)

- a. 日本語について研究をする人が増えている。(他動詞)
- b. 老夫婦が離婚した。→老夫婦が離婚をした。(非能格動詞)
- c. 機能が弱化した。→*機能が弱化をした。(非対格動詞)

通常、ヲ格は他動詞の目的語に与えられる格であるが、この「スル動詞」の構文においては、前の漢語部分があたかも「する」の目的語のように見なされている。しかし、非対格動詞にヲ格をつけることは不自然だと判断される。この違いを理解するために、非対格動詞と非能格動詞の統合構造を図式で示してみよう。

(9)



このように、漢語動詞のヲ格表示の可能性は、漢語動詞自体の項構造によって左右される。他動詞的な漢語動詞と同じく、外項を持つ非能格動詞はヲ格表示を許容するが、非対格動詞はヲ格表示を許容しない。このような現象は韓国語にも同じく表れているが、日本語が全て「スル形」を取るのに対し、韓国語では「하다 (hada) 形」と「되다 (doeda) 形」という二つの異なる形態を取っている。

4. 対応関係の分類

すでに述べたように、日本語の「スル動詞」とその受動形「サレル形」に対し、韓国語では、「하다 (hada) 形」とその受動形の「되다 (doeda) 形」が対応する。

一方、韓国語では、「하다 (hada) 形」と「되다 (doeda) 形」をめぐって語彙によりその形態の取り方が異なり、大きく次の三つに分かれる。

- (10) i. 「하다 (hada) 形」のみをとるもの
- ii. 「되다 (doeda) 形」のみを取るもの
- iii. 「하다 (hada) 形」と「되다 (doeda) 形」の両方を取るもの

上の三つのグループのうち、iiの「되다 (doeda) 形」のみを取るものは、ほかの二つに比べその数は少ない。

以下、日本語「スル形」・「サレル形」と韓国語の「하다 (hada) 形」・「되다 (doeda) 形」の対応関係を自動詞と他動詞に分けて示すと、次の4つのグループに分類することができる。

(11)

I. 日本語「スル形」	longleftrightarrow	韓国語「하다 (hada) 形」(他動詞)
発見する		발견하다 balgyeon-hada
発行する		발행하다 balhaeng-hada
⇓		⇓
日本語「サレル形」	longleftrightarrow	韓国語の「되다 (doeda) 形」
発見される		발견되다 balgyeo-doeda
発行される		발행되다 balhaeng-toeta

II. 日本語「スル形」	longleftrightarrow	韓国語「하다 (hada) 形」(自動詞)
恋愛する		연애하다 yeon-e-hada
努力する		노력하다 noryeok-hada

III. 日本語「スル形」	longleftrightarrow	韓国語「되다 (doeda) 形」(自動詞)
感染する		감염되다 gam-yeom-doeda
安定する		안정되다 an-jeong-doeda

IV. 日本語「スル形」	longleftrightarrow	韓国語「하다 (hada) 形」(自動詞)
	↙	韓国語「되다 (doeda) 形」
変化する		변화하다 byeonhwa-hada
		변화되다 byeonhwa-doeda
挫折する		좌절하다 jwajeol-hada
		좌절되다 jwajeol-doeda

韓国語にはグループ I のように日本語の「スル動詞」が「하다 (hada) 動詞」に対応し、その受動態が「되다 (doeda) 形」を取るものがある。つまり、日本語における能動形と受動形での「スル形」と「サレル形」が、そのまま韓国語の「하다 (hada) 形」と「되다 (doeda) 形」に対応するわけである。I グループはその対応関係に当てはまるので、ここでは無標として設定する。そして、I グループに属する「スル動詞」と「하다 (hada) 動詞」は、他動詞のみで、II～IV グループに分類した語は、すべて自動詞である。

5. 他動詞の場合（I グループ）

他動詞の場合はI グループであり，日本語と韓国語が規則的な対応関係を見せる。

- (12) a. 考古学者が 旧石器時代の 遺跡を 発見した。
b. 고고학자가 구석기 시대의 유적을 발견하였다.
gogohakja-ga guseokgi sidae-ui yujeok-eul balgyeon-ha-yeo-ss-da.
(考古学者 が 旧石器 時代 の 遺跡 を 発見 する-過去-終結 E)
- (13) a. 旧石器時代の 遺跡が 考古学者によって 発見された。
b. 구석기 시대의 유적이 고고학자에 의하여 발견되었다. (受動形)
guseokgi sidaeu-i yujeok-i gogohakja-e uihayeo
(旧石器 時代 の 遺跡 が 考古学者 によって
balgyeon-doe-eoss-da.
発見 される-過去-終結 E)
- (14) a. 台風が たくさんの 家屋を 破壊した。
b. 태풍이 많은 가옥을 파괴하였다.
taepung-i manh-eun gaok-eul pagoe-ha-yeo-ss-da
(台風 が たくさん 家屋-を 破壊 する-過去-終結 E)
- (15) a. 台風によって たくさんの 家屋が 破壊された。
b. 태풍에 의하여 많은 가옥이 파괴되었다. (受動形)
taepung-e uiha-yeo manh-eun gaok-i pagoe-doe-eoss-da.
(台風 によって たくさん 家屋 が 破壊 される-過去-終結 E)

このグループの漢語動詞は，主体が有情物あるいは自体が大きな力を持つものであり，その対象に対し積極的な働きかけを行うという共通点を持つ。

6. 自動詞の場合

Ⅱ～Ⅳグループに分類した語はすべて自動詞で，Ⅰグループの他動詞と異なり，それぞれの特徴を持つ。以下は具体的な分析である。

6.1 II グループ (「スル」-「hada」対応形)

II グループに分類される語は、日本語の「スル形」が、韓国語の「하다 (hada) 形」のみに対応している動詞である。

(16) a. 彼が欠席した。

b. 그가 결석하였다.

geu-ga gyeolseok-ha-yeo-ss-da

(彼 が 欠席 する-過去-終結 E)

(17) a. 私たちのチームが勝利した。

b. 우리 팀이 승리하였다.

uri tim-i seungri-ha-yeo-ss-da

(私たちの 勝利 する-過去-終結 E)

(努力/노력, 帰国/귀국, 乗車/승차, 死亡/사망, 恋愛/연애, 進学/진학, 協力/협력, 握手/악수, 感激/감격, 会議/회의, 食事/식사, 遅刻/지각……など)

(16)と(17)の例において、韓国語では、漢語に「되다 (doeda)」がつきにくい。これは韓国語には自動詞の受身表現が存在しないため、受身接辞としての「되다 (doeda)」がつかないものと考えられる。

一方、日本語では、このような漢語に「サレル」がつくと、迷惑の受身になる。迷惑の受身というのは、間接的に影響を被るものを主語に立てる表現で、間接受身ともいう。例えば、例(18)のようなものである。

(18) 妹に先に結婚されて、悔しい。

(동생이 먼저 결혼해서 속상하다)

dongsaeng-i meonjeo gyeolhon-hae-seo soksang-hada

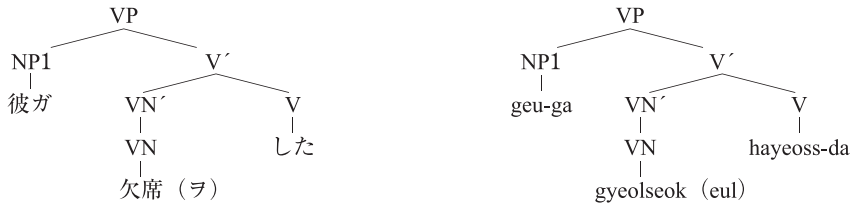
(19) * 新局面に展開された。

しかし、例(18)のように、自動詞構文だからと言って全て迷惑の受身になれるわけではなく、「主体が自主的に動作を行う」という意味の制限を受ける。その動作の結果をなんらかの迷惑

として感じ取るものは、主語になる第三者である。³

その構造から見ると、例(16')のような図式になる。

(16')



図式から見ると、文全体の主語が意味上の主語、つまり外項であると分析することができる。

このような漢語動詞こそ迷惑の受身文を生成することのできる条件を備えているといえる。

また、意味的な面からすると、主に動作性が強く、意志性の高い自動詞である。

6.2 Ⅲ グループ (「スル」-「doeda」対応形)

Ⅲグループに分類される語は、日本語の「スル形」が、韓国語の「되다 (doeda) 形」のみに対応している動詞である。

(20) a. 機能が弱化了しました。

b. 기능이 약화되었다.

gineung-i yakhwa-doe-eo-da.

(機能 が 弱化 なる-過去-終結 E)

(21) a. 結局同じだったことが判明するだろう。

b. 결국 마찬가지로 판명될 것이다

gyeolguk machangaji-yeoss-eum-i panmyeong-doe-lgeos-ida

(結局 同じ だったこと-を 判明 なる-話者の判断)

³ 森田良行 (1989), 『基礎日本語辞典』

(22) a. チームは瓦解する運命にあったのである。

b. 팀은 와해될 운명에 있었던 것이다

tim-eun wahae-doel

(チームが 瓦解-なる-転成 E 冠形詞形未来)

unmyeong-e isseossdeon geos-ida

運命 に ある-過去-回想-話者の判断)

(23) a. あの人は部隊に所属している。

b. 그 사람은 부대에 소속되어 있다.

geu saram-eun budae-e sosokdoe iss-da

(あの 人 は 部隊に 所属-なる いる-過去-終結 E)

(24) a. 安定した状態を維持する

b. 안정된 상태를 유지하다

anjeong-doen

sangtae-reul yuji-hada

(安定 なる-転成 E 冠形詞形過去 状態 を 維持する)

(25) a. 無人島に孤立する

b. 무인도에 고립되다

mu-indo-e gorip-doe-da

(無人島 に 孤立 なる)

(26) a. 鈴木が班長に当選した。

b. 스즈키는 반장으로 당선되었다.

seujeuki-neun banjang-euro dangseon-doe-eoss-da

(鈴木 が 班長 に 当選 なる-過去-終結 E)

(안정/安定, 共通/공통, 感染/감염, 変質/변질, 分散/분산, 孤立/고립, 汚染/오염, 悪化/악화, 判明/판명, 弱化/약화, 当選/당선, ……等)

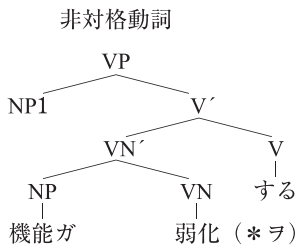
例(20)と(21)は、韓国語の「하다 (hada) 形」を用いることができないか、あるいは用いるとやや不自然になる。例(20)と(21)の主語である「機能」「結局同じだったこと」は、自らの力で「弱化」「判明」という動作・作用を引き起こすことはできない。つまり、主体の変化の発生に直接関与していないという意味的特徴を持っている。

そして、このような語は、その語彙的な意味に動作性はなく、状態の変化を表すか、相互関係を表すものである。漢語名詞自体も単独で名詞としてほとんど使われず、「スル」または「되다 (doeda)」をつけて、動詞として使われることが多い。しかも、主語には、動作の主体として人間ではなく、状態変化の主体として、抽象物が現れる。例(22)の「瓦解する」の主体は、「チーム」のような人間または人間相当の物である場合が多いが、これはあくまでも＜状態変化＞の主体であって＜動作＞の主体ではない。

上記の例から見ると、例(16)および(17)と違って、動作・状態変化の実現は、主語によるものではない。

その項構造を図式で示すと以下のようになる。

(20')



このような自動詞は、項構造から見ると、内項を持っていると考えられ、言い換えると意味上の目的語を持っていると考えられる。

6.3 IVグループ（「スル」-「hada」/「doeda」対応形）

IVグループに分類される語は、日本語の「スル形」が、韓国語の「하다 (hada) 形」・「되다 (doeda) 形」の両方に対応する動詞である。使われる状況によって、用いる形態が変わる。

(27) a. あの人は緊張して一歩退いた。

b. 그사람은 긴장하여 (* 긴장되어) 한 걸음 물러섰다.

geu saram-eun ginjang-ha-yeo han geoleum mulreoseo-ss-da

(あの 人 は 緊張 する 一歩 退く-過去-終結 E)

(27°) a. 緊張した声で話をした。

b. 긴장된 (* 긴장한) 목소리로 말하다

ginjang-doen moksori-ro mal-hada

(緊張 なる-過去 声 で 話す)

(28) a. 南北協商による自主的統一努力が挫折した。

b. 남북협상에 의한 자주적 통일노력이 좌절되었다 (* 좌절하였다).

nanbukhyeopsang-e uihan jajujeok tong-il-noryeok-i

(南北協商 による 自主的 統一 努力 が

jwajeol-doe-yeoss-da

挫折 なる-過去-終結 E)

(28°) a. あの人は挫折した私に勇気をくれた。

b. 그는 좌절한 (* 좌절된) 나에게 용기를 주었다

geu-neun jwajeol-han

(あの人は 挫折-する-転成 E 冠形詞形過去

na-e-ge yonggi-reul ju-eoss-da

私 に 勇気 を くれる-過去-終結 E)

(29) a. 二つの政府が公的に出現する可能性が大きくなった。

b. 두 정부가 공식적으로 출현될 (* 출현할) 가능성이 커지었다

du jeongbu-ga gongsikjeok-euro chulhyeon-doel

(二つ 政府 が 公的 に 出現 なる-転成 E 冠形詞形未来

ganeungseong-i keoji-eoss-da

可能性 が 大きい-過去-終結 E)

(29°) a. ソウル北側上空に飛行機が出現した。

b. 서울 북쪽 상공에 비행기가 출현하였다 (* 출현되었다)

seoul bukjjok sanggong-e bihaenggi-ga chulhyeo-haess-da

(ソウル 北側 上空 に 飛行機 が 出現 する-過去-終結 E)

(減少/감소, 成立/성립, 感動/감동, 流行/유행, 一致/일치, 分裂/분열, 緊張/긴장, 挫折/좌절, 変化/변화, 対立/대립, 作用/작용……等)

上記の例は、日本語では「スル形」を取るが、韓国語では「하다 (hada) 形」と「되다 (doeda) 形」が両方とも使われるものである。

しかし、動詞やその主体によって、「하다 (hada) 形」と「되다 (doeda) 形」のうちどちらを取るかに制限が生じる。例27では、「되다 (doeda) 形」に置き換えると、やや不自然な文になり、このような主体に人間または人間相当のものが出てくると、「되다 (doeda) 形」はつきにくいと考えられる。他方、例28では、その状態は、主語以外の力で実現されるものなので、「하다 (hada) 形」に置き換えにくいと考えられる。

つまり、このグループの動詞において、動作・状態変化の実現において最も強く働いた力が、主語の持つ力とみなされる時は「하다 (hada) 形」、主語以外の力とみなされる時は「되다 (doeda) 形」が用いられると考えられる。他からの働きかけがなくても主体の動き・変化が起こるような意味を持つ語が多い。

そして、このグループの動詞は、韓国語では非能格、非対格両方が成立しうるものである。要するに、韓国語では同じ漢語動詞が内項を取る場合は「하다 (hada) 形」、外項を取る場合は、「되다 (doeda) 形」が用いられるように考えられる。

6.4 自動詞の対応分類のまとめ

以上の内容をまとめると、動作の意味によって差はあるものの、韓国語の自動詞における「하다 (hada) 形」と「되다 (doeda) 形」の使い分けは、動作・状態変化の実現に際して最も強く働くのが主語の力か否かによると考えられる。更にその使い分けにおいて、できごとに対する話者の視点が関与しているようである。

これをまとめると、以下の表1のようになる。

表 1

対応関係の分類	意味的特徴 (日韓)	内部構造 (韓国語)	内部構造 (日本語)
Ⅱグループ 「スル」－「hada」対応形	意志 動作性	非能格動詞	非能格動詞
Ⅲグループ 「スル形」－「doeda」対応形	無意志 抽象, 状態変化	非対格動詞	非対格動詞
Ⅳグループ 「スル形」－「hada」 「doeda」対応形	意志 状態変化	「하다 (hada) 形」 非能格動詞	「スル形」 非能格動詞
		「되다 (doeda) 形」 非対格動詞	「スル形」 非対格動詞

表1を見ると、韓国語のような内部構造の使い分けが、日本語にはないと言える。韓国語では、その内部構造によって、形態の面の使い分けがはっきりしているのに対し、日本語は意味

の面からの区別しかできない。両言語の内部構造についてみると、Ⅱ、Ⅲグループは全部共通していると考えられる。日韓両言語で区別が一番はっきりしているのはⅣグループだが、愚考するに、ⅢグループとⅣグループの中の「되다 (doeda) 形」の使い方は、「되다 (doeda)」の本動詞の意味、つまり、「ニナル」の影響でないかと考えられる。

そして、動作・状態変化に直接関係しない話者の視点が入っている点では、日本語の「迷惑の受身」と共通する部分がある。ただ、自動詞の受動において日本語と韓国語のうち相違が表れるのは、構文の取り方である。日本語の場合自動詞文が間接受動文になると、動作主体は通常「に」を取り、第三者が動作主体として立てられる。これに対し韓国語では、自動詞文では主語の変化を伴わず「하다 (hada) 形」から「되다 (doeda) 形」への交替のみが起こるといった違いがある。日本語の自動詞の受動では、働きかけを受ける主語と働きかけをするものの関係が明示されているのに対し、韓国語では動作・状態変化の実現は主語の力によるか否かが示されるだけで、主語に対する働きかけは必ずしも明示されない。

7. 終わりに

本稿では、日韓二字漢語動詞に関し、形式上から現象を整理して、その対応関係を自動詞と他動詞との場合に分けて再分類した。

(30)

スル形 非能格 — 「하다 (hada) 形」

非対格 — 「되다 (doeda) 形」

サレル形 — 「되다 (doeda) 形」

総括すると、日本語と韓国語の二字漢語動詞に関し、その項構造から規則的に対応でき、日韓対照を通して、日本語の自動詞にも外項を持つ非能格動詞と内項を持つ非対格動詞の2種類があることを提示した。そして、意味の面からも、主語が動作主である場合と、動作・状態変化の実現が主語によってではなく、かつ主語に対する積極的な働きかけも示されない場合の二つの場合があることを明らかにした。それに対し、韓国語「하다 (hada) 形」と「되다 (doeda) 形」の区別は、基本的には動作・状態変化の実現において最も強く働いた力が、主語の持つ力とみなされる時は「하다 (hada) 形」、主語以外の力とみなされる時は「되다 (doeda) 形」が用いられることを明らかにした。

一方、これまでの分析は自動詞と他動詞が明確に区分できる場合のことであり、それが自他両用動詞の場合になるとどうなるか、そして、韓国語の「되다 (doeda) 形」が本動詞の意味で使われる原因や、日本語の「スル形」でも「ニナル」の意味があるかどうかなど、まだいろ

いろいろ検討しうる問題が多く残っている。引き続き今後の課題にしたい。

(さい かいりん・言語文学専攻)

参考文献

- 生越直樹 (1982) 「日本語漢語動詞における能動と受動 — 朝鮮語 *hada* 動詞との対照」
『日本語教育』48 号 日本語教育学会
- (2001) 「現代朝鮮語의 하다動詞における하다形と되다形」,
『「하다 (*hada*)」と『する』の言語学』, 筑波大学, 統制言語文化の類型論特別プロジェクト研究成果報告書
- 韓 有錫 (1990) 「漢語動詞「-スル」と「-toeda」の日韓対照研究」
『名古屋大学国語国文学』67 名古屋大学国語国文学会
- 影山太郎 (1993) 『文法と語形成』, 東京, ひつじ書房
- 金田一春彦 (1957) 「時・態・相及び法」『日本文法講座 1 総論』明治書院
- 小林英樹 (2004) 『現代日本語の漢語動詞の研究』, 東京, ひつじ書房
- 柴 公也 (1986) 「漢語動詞の態をいかに教えるか — 韓国人学生に対して —」
『日本語教育』59 日本語教育学会
- 森田良行 (1989) 『基礎日本語辞典』角川書店
- 油谷幸利 (2005) 『日韓対照言語学入門』, 東京, 白帝社
- 若生正和 (2008) 「日本語と韓国語の漢字表記語の対照研究—漢語動詞を中心に—」
『大阪教育大学紀要』第 I 部門 第 56 巻 第 2 号 大阪教育大学